

4. 学会発表

4. 1. 国際学会

1. Imai R, Osumi M, Morioka S
Influence of illusory kinesthesia by vibratory tendon stimulation on pain threshold: consideration of the trait anxiety.
The 9th Congress of the European Pain Federation EFIC® .Vienna.
振動刺激の負荷と振動刺激による運動錯覚の惹起させることで痛み閾値への影響、ならびに特性不安に影響されるかどうか検討した。その結果、両群ともに痛み閾値の向上を認めた。さらに運動錯覚群では特性不安に影響されないことを発表した。
2. Katayama O, Imai R, Osumi M, Morioka S
Neural mechanism of dysesthesia produced by sensorimotor incongruence.
The 9th Congress of the European Pain Federation EFIC® .Vienna.
運動の意図と体性感覚に対して、空間的に不一致した視覚情報が与えられた際に惹起される異常知覚の要因を質問紙と脳波計を用いて、心理学的、神経生理学的に検討し、異常知覚の要因が体性感覚と視覚情報の不一致である可能性を報告した。
3. Akaguchi R, Osumi M, Morioka S
Social pain changes pain sensitivity in people with anxiety state.
Society for Neuroscience 45th Annual Meeting Neuroscience 2015.
Chicago.
妬みという社会的痛みが主観的痛みに与える影響について脳波を用いて検討した。その結果、妬み経験によって痛みは増強し、その増加の仕方は特性不安といった個人因子が関与していることを示唆した。また、頭頂領域では前頭領域が主観的痛みの変化と関与していることを示唆した。
4. Takamura Y, Ohmatsu S, Imanishi M, Osaka M, Tominaga T, Morioka S, Kawashima N
Imbalance between frontal and parietal cortex during choice reaction task in patient with spatial neglect.
Society for Neuroscience 45th Annual Meeting Neuroscience 2015.
Chicago.
半側空間無視の回復過程において前頭葉と頭頂葉内に異なった位相同期特性が存在することを明らかにした。

5. Nakata K, Nobusako S, Morioka S
The relationship between body presentation and visuospatial perception.
Society for Neuroscience 45th Annual Meeting Neuroscience 2015.
Chicago.
ラバーハンド錯覚が線分二等分における主観的中点の知覚に及ぼす影響を視線を用いて検証した.

6. Shiozaki T, Okada Y, Morioka S
The influence that modulation of subjective postural vertical decrease awareness of body orientation
Society for Neuroscience 45th Annual Meeting Neuroscience 2015.
Chicago.
健常者において身体傾斜により主観的身体垂直位の変調が起こる事を検証した。また、その際に自己の身体への気づきが低下する事を報告した.

4. 2. 国内学会

1. 松尾 篤, 吉川歩実, 森岡 周
他者の感情理解に自己の表情が影響する ～共感的コミュニケーションの性別差の観点から～
第 50 回日本理学療法学会. 2015. 東京.
女性は男性よりも他者の感情理解に優れており, 男性においてのみ他者の表情を模倣することによって感情理解が促進されたことを報告した.
2. 冷水 誠, 岡田洋平, 前岡 浩, 松尾 篤, 森岡 周
他者との比較が運動学習およびモチベーションに与える影響
第 50 回日本理学療法学会. 2015. 東京.
これは他者との結果比較によって有能感を得ようとする動機づけあるいは目標設定となることで達成への動機づけが働くことによって, 効果的な学習につながることを報告した.
3. 前岡 浩, 冷水 誠, 松尾 篤, 森岡 周
反復した痛み刺激に対する右背外側前頭前野への経頭蓋直流電気刺激の効果検証
第 50 回日本理学療法学会. 2015. 東京.
反復した痛み刺激に対し, 右 DLPFC 領域の tDCS によって不快, 安の低下と増加の抑制が認められることを明らかにし, 有効な tDCS 実施に向けた基礎的研究を報告した.
4. 岡田洋平, 冷水 誠, 森岡 周 他
パーキンソン病の前屈姿勢に対する直流前庭電気刺激の即時効果 -単盲検無作為化シヤム対照試験-
第 50 回日本理学療法学会. 2015. 東京.
前屈姿勢を呈するパーキンソン病患者に一定時間直流前庭電気刺激を行うことにより, 即時的に立位時の前屈姿勢が改善することを明らかにした.

5. 信迫悟志, 菅野安須加
修正したジェスチャートレーニングが失行における意味性の錯行為の改善に有効であった一症例
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
道具使用において意味性の錯行為を呈した症例に対して, ジェスチャートレーニングを修正して実施した結果を報告した.
6. Osumi M, Takamura Y, Sano Y, Wake N, Ichinose A, Kumagaya S, Sumitani M, Kuniyoshi Y, Morioka S
The relationship between the pain with Brachial Plexus and motor representation.
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
腕神経叢損傷後疼痛と運動表象との関係について両手干渉課題を用いて調査し, 運動表象が残存している者は腕神経叢損傷後疼痛が軽度であることを報告した.
7. 大住倫弘, 中村彩乃, 森岡 周
運動意図と Mirror Visual Feedback の組み合わせが運動制御に影響を与える
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
他動運動によるミラーセラピーの効果を調査するために, 両手干渉課題を用いて Mirror Visual Feedback が運動制御に影響を与えるのか否かを明らかにした結果を報告した.
8. Ueta K, Morioka S
Effects of voluntary control on center of pressure sway and coactivation of ankle muscles during dual task in individuals with stroke
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
脳卒中片麻痺者が静止立位中に認知課題を実施した際に, 随意的制御が減少した者は COP 動揺や下腿筋の同時活動が減少することを発表した.
9. Takamura Y, Imanishi M, Osaka M, Ohmatsu S, Tominaga T, Morioka S, Kawashima N
Leftward gaze shift in recovery process after unilateral spatial neglect - Eye tracker-based behavioral test and task-related EEG activity-
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
半側空間無視症例の回復過程における病識に伴う代償戦略を定量化した, その脳内基盤を明らかにしたものを報告した.

10. 湊上 健, 桑原有香, 加古川直己, 大島実果, 佐野一成, 森岡 周
脳卒中片麻痺患者に対する運動観察治療の試みー足関節背屈機能障害に注目してー
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
回復期脳卒中患者の麻痺側足関節背屈機能低下に対する運動観察治療の経時的な臨床効果の有無を検証した. 実験デザインは 4 症例で AB デザインを用いた. すべての症例において基礎水準期に比べ操作導入期で, 足関節背屈に関する Fugl-Meyer や自動 ROM, 筋力が向上した.
11. 片山 脩, 鈴木克浩, 鈴木千尋, 中野 匠, 藤原菜摘, 前岡 浩, 大住倫弘, 森岡 周
運動と視覚情報の不一致により惹起される異常感覚の検討 ー心理・社会的要因に着目してー
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
運動と視覚情報の不一致により惹起される異常感覚に心理・社会的要因が関係しているかを検討し, 年齢や職歴といった要因が関係している可能性を報告した.
12. 大門恭平, 尾川達也, 松尾 篤, 森岡 周
2 者の対話における共感に関連する要因の検討
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
初対面同士の 2 者の対話における共感に関連する要因を検討し, 共感には身体動作の同調傾向と個人のセルフ・モニタリング能力が関連することを発表した.
13. 赤口 諒, 川崎有可, 大住倫弘, 森岡 周
妬み情動経験が主観的疼痛強度に及ぼす影響
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
妬みという自己と他者を比較することで生じる不快情動が主観的疼痛強度にどの程度影響を与えるかの検証を行い, 妬み経験によって痛みは増強することを発表した.
14. 石垣智也, 植田耕造, 菅沼惇一, 脇 聡子, 冷水 誠, 岡田洋平, 森岡 周
Light Touch 効果は感覚運動皮質領域と後部頭頂皮質領域の脳活動と関係する
第 50 回日本理学療法学術大会. 2015. 東京.
立位姿勢動揺を減少させる Light Touch 効果に関係する脳活動について, 脳波周波数解析を用いて検討した. 結果, High- α 波において, Light Touch 効果と左感覚運動皮質領域, そして左後部頭頂皮質領域の脳活動が関係することを発表した.

15. 植田耕造, 金 由佳, 岡田洋平, 冷水 誠, 森岡 周
Wallenberg 症候群を呈した一症例のめまいと姿勢制御障害に対する Galvanic Vestibular Stimulation の即時的効果
第 50 回日本理学療法学会. 2015. 東京.
Wallenberg 症候群を呈した一症例に対して Galvanic Vestibular Stimulation を実施した所, COP 動揺やめまいが軽減したことを発表した.
16. 尾川 達也, 大門 恭平, 湯田 智久, 森岡 周
ライフゴール概念を取り入れた目標設定が入院患者の心理機能と意欲に与える影響 - 準ランダム化比較試験による検討 -
第 50 回日本理学療法学会. 2015. 東京.
心理学におけるライフゴール概念をリハビリテーションの目標設定に追加することで, 回復期リハビリテーション病棟入院患者の心理機能や意欲により効果があるかを検証した.
17. 佐藤剛介, 田中陽一, 大住倫弘, 森岡 周
脊髄損傷後の疼痛による self-efficacy および心理的要因への影響
第 50 回日本理学療法学会. 2015. 東京.
地域在住の脊髄損傷者に対して疼痛の有無と疼痛に関連する心理的要因について調査した. 疼痛を有する脊髄損傷者では抑うつ・破局的思考が高い一方で self-efficacy が低下し, 破局的思考と self-efficacy が負の相関関係であったことについて発表した.
18. 佐藤剛介, 田中陽一, 大住倫弘, 森岡 周
頸髄損傷後の両肩関節痛の緩和により心理的要因に変化がみられた一症例
第 50 回日本理学療法学会. 2015. 東京.
両肩関節痛を有する頸髄損傷者に対して疼痛緩和を目的とした介入を行い, 介入前後での心理的評価の変化を調べた. 疼痛緩和に伴い気分・破局的思考・疲労・健康関連 QOL で改善が得られたことを発表した.
19. 今井亮太, 大住倫弘, 森岡 周
腱振動刺激による運動主体感の錯覚が痛み閾値に与える影響
第 50 回日本理学療法学会. 2015. 東京.
腱振動刺激による運動錯覚時の運動主体感の程度が痛み閾値に与える影響を検討した. 結果, 運動錯覚強度や運動錯覚角度には依存せず, 運動主体感が高いほど痛み閾値の上昇が認められたことを発表した.

20. 塩崎智之, 岡田洋平, 森岡 周
健常者における直流前庭電気刺激が主観的視性垂直位に与える影響について
第 50 回日本理学療法学会大会. 2015. 東京.
頭部の傾斜の統制を行った条件で健常成人において直流前庭電気刺激の実施が主観的視性垂直位に一時的に変化をもたらす事を報告した.
21. 脇 聡子, 植田耕造, 大住倫弘, 石垣智也, 菅沼惇一, 高村優作, 中野英樹, 岡田洋平, 冷水 誠, 森岡 周
歩行開始時の脳活動-運動準備電位を用いて-
第 50 回日本理学療法学会大会. 2015. 東京.
歩行開始時の一次運動野 (M1) と補足運動野 (SMA) の活動の左右差について脳波を用いて検証した.M1 でのみ左右差を認める結果となった.発生源同定を行い,SMA の活動上昇がみられた.SMA は左右両側で歩行開始時の運動準備を担っていることが示唆された.
22. 菅沼惇一, 橋本宏二郎, 高木 恵, 佐藤 剛, 植田耕造, 岡田洋平, 冷水 誠, 森岡 周
恐怖環境が静止立位中の sensory reweighting に与える影響
第 50 回日本理学療法学会大会. 2015. 東京.
恐怖環境における立位姿勢中の sensory reweighting(感覚情報の重み付け)について研究を行い, 恐怖環境では sensory reweighting(感覚情報の重み付け)が変化することを発表した.
23. 高村優作, 今西麻帆, 大松聡子, 河島則天, 森岡 周, 富永孝紀
半側空間無視症例における頭頂-前頭皮質間の位相同期特性
第 9 回 Motor Control 研究会. 2015. 京都.
半側空間無視症例の回復過程における前頭-頭頂葉の位相同期特性の変化について報告した.
24. 淵上 健, 森岡 周
歩行観察時の大脳皮質活動とイメージの鮮明度-自己モデルと他者モデルによる違い-
日本認知科学学会第 32 回大会. 2015. 千葉.
自己と他者のモデルの歩行観察を行った時の大脳皮質活動について, fNIRS を用いて調査した. 自己では右前頭頭頂ネットワークが, 他者では左のミラーニューロンシステムが活性化された. また, 自己の歩行観察の方がより鮮明なイメージが導かれた.

25. 片山 脩, 大住倫弘, 今井亮太, 森岡 周
感覚-運動の不一致により惹起される異常感覚の要因 -脳波を用いた検討-
第 20 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2015. 名古屋.
運動の意図と体性感覚に対して、空間的に不一致した視覚情報が与えられた際に惹起される異常知覚の要因を質問紙と脳波計を用いて、心理学的、神経生理学的に検討し、異常知覚の要因が体性感覚と視覚情報の不一致である可能性を報告した。
26. 今井亮太, 高村優作, 大住倫弘, 森岡 周
橈骨遠位端骨折術後患者の痛みと運動速度の関係性-1 症例による検討-
第 20 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2015. 名古屋.
橈骨遠位端骨折術後患者の運動速度に着目し、痛みの感覚的および情動的側面と運動速度との関係性を検討した。結果、感覚的側面や情動的側面の改善とともに速度の上昇が認められたことを報告した。
27. 田中陽一, 佐藤剛介, 湯田智久, 大住倫弘, 森岡 周
ソーシャルスキルが痛み共感および心理要因に与える影響
第 20 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2015. 名古屋.
ソーシャルスキルが痛み共感の感受性とどのような関係性を有しているか調査した。共分散構造分析を用いて、ソーシャルスキルと痛み共感に加えて、ソーシャルスキルに関連する心理社会的要因も踏まえた他要因間の相互関係性のモデル分析を行い報告した。
28. 佐藤剛介, 大住倫弘, 森岡 周
周期運動が脊髄損傷後の疼痛と脳波に与える影響
第 20 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2015. 名古屋.
周期運動(車椅子駆動)が脊髄損傷後の疼痛・気分と安静時脳波に与える影響を調べた。車椅子駆動後に NRS が減少し、気分においては「抑うつ」と「敵意-怒り」の項目で有意に減少した。脳波の結果は、車椅子駆動後に前頭・中心・頭頂領域で α 波の有意な増加が認められたことについて発表した。
29. 田中陽一, 大住倫弘, 森岡 周
ソーシャルスキルが痛み共感および心理要因に与える影響
日本心理学会第 79 回大会. 2015. 名古屋.
痛み共感に関連する要因としてソーシャルスキルとの関係性を検討し、ソーシャルスキルの下位項目である「関係開始」が関係していることを報告した。

30. 大松聡子, 高村優作, 今西麻帆, 富永孝紀, 阿部浩明, 森岡 周, 河島則天
能動的注意／受動的注意に特徴的な半側空間無視症状を呈した 2 症例の対
比的考察
第 54 回近畿高次神経機能研究会. 2015. 大阪.
視覚性注意機能における能動的注意と受動的注意それぞれに特徴的な無視症状を呈し
た 2 症例を取り上げ, 脳画像所見と行動データからの病態解釈を報告した. 半盲との
線引きや, 色の意味合いに関する意見をいただいた.
31. 中谷友紀, 大松聡子, 森岡 周
精神的ストレス負荷による自律神経の継時的変化; ローレンツプロット解析
を用いて
第 55 回近畿理学療法学術大会. 2015. 神戸.
運動予測の可否が気分を与える影響について調査した.
その結果, 主観的気分評価において予測不能課題は予測可能課題と比較して負の気分を
示したことを発表した.
32. 浅野大喜, 森岡 周
独歩を獲得した PVL 児の運動発達経過 ～出生後早期からの予防的リハビリ
テーション～
第 2 回日本小児理学療法学会学術集会. 2015. 横浜.
新生児期に PVL と診断されその後独歩が可能となった症例 7 例の出生後から独歩獲得
までの運動発達経過を Alberta Infant Motor Scale (AIMS) を用いて評価し, 先行研究
の定型発達児, 早期産児のデータと比較検討した結果, PVL 児は早産児よりも歩行獲
得が遅れる傾向が認められた.
33. 浅野大喜, 森岡 周
運動に困難さをもつ子どもの身体イメージと運動能力の関係
第 12 回子ども学会議. 2015. 神戸.
脳性麻痺児・発達障害児の上肢・下肢の身体イメージについて tactile localization を用
いて評価し, 運動能力との関係について調査した結果, 手指の tactile localization と手
の運動機能の有意な関係があり, 下肢については足趾ではなく下肢全体の tactile
localization と下肢運動機能との間に有意な関係性が認められた.

34. 塩崎智之, 岡田洋平, 森岡 周
健常者における主観的身体垂直位の変調について
第 74 回日本めまい平衡医学会学術総会. 2015. 岐阜.
健常者において身体傾斜により自覚的身体垂直位が変調する事を示し, 時間要因に比べ角度要因の影響が大きい事を報告した.
35. 高村優作, 今西麻帆, 大松聡子, 富永孝紀, 森岡 周, 河島則天
半側空間無視の回復過程における代償戦略としての意図的な左視線偏向
第 12 回神経理学療法学会学術集会. 2015. 福岡.
半側空間無視の回復過程における代償戦略に関連した脳活動について脳波を用いて検討した. 特に, パワーと位相のダイナミクスについて発表した.
36. 高村優作, 今西麻帆, 大松聡子, 河島則天, 森岡 周, 富永孝紀
病識の定着とともに左無視空間への過剰な視線偏向を呈した半側空間無視症例 – 眼球運動計測による行動評価と脳波計測による病態メカニズムの検討 –
第 16 回日本認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2015. 神戸.
過度な代償戦略を示す一症例を呈示し, 縦断的な経過および代償に関与する神経基盤を示した.
37. 佐藤剛介, 大住倫弘, 森岡 周
車椅子駆動が脊髄損傷後の疼痛と安静時脳波へ与える影響
第 50 回日本脊髄障害医学会. 2015. 東京.
車椅子駆動が脊髄損傷後の疼痛・気分と安静時脳波に与える影響を調べた. 車椅子駆動により主観的疼痛強度が減少し, 気分の改善が得られることが示唆された. 車椅子駆動後には中心・感覚皮質領域で α 波が有意に増加することが示されたことについて発表した.
38. 石垣智也, 今井亮太, 森岡 周
左後部頭頂皮質への経頭蓋直流電気刺激がライトタッチ効果に及ぼす影響
第 2 回 日本基礎理学療法学会学術集会・日本基礎理学療法学会 第 20 回学術大会合同学会, 2015. 神奈川.
左後部頭頂皮質に対して陰極刺激による経頭蓋直流電気刺激を行うと, ライトタッチ効果が減弱することを報告した.

39. 今井亮太, 大住倫弘, 森岡 周
腱振動刺激による運動錯覚時の運動主体感が疼痛抑制に与える影響
第8回日本運動器疼痛学会. 2015. 名古屋.
腱振動刺激による運動錯覚を惹起させた時の運動主体感が疼痛閾値に及ぼす影響を検討した. その結果, 痛み閾値の向上と運動主体感に有意な正の相関関係を示すことを報告した.
40. 信迫悟志, 大住倫弘, 森岡 周
頸部痛患者における視線方向認知課題時の脳活動
第8回日本運動器疼痛学会. 2015. 名古屋.
頸部痛患者と健常者における視線方向認知課題 (GDR) 実施中の脳波計測の結果を報告した. 頸部痛患者では, 健常者と比較して, GDR の RT の有意な遅延を認め, 頸部運動のシミュレーション困難が示唆されたが, 健常者と同様に感覚運動領域の α 波の減衰を認め, シミュレーション自体は行われていると考えられた. 頸部痛患者では GDR 時に痛みの知覚や注意, 共感に関わる前部帯状回の活動増加が認められ, この賦活と RT の遅延には, 何らかの関係があることが示唆された.
41. 片山 脩, 大住倫弘, 今井亮太, 森岡 周
感覚-運動の不一致における異常感覚の検討 -異なる感覚-運動の不一致条件を用いて-
第8回日本運動器疼痛学会. 2015. 名古屋.
運動意図と視覚に対し体性感覚が空間的に不一致した際の異常知覚について, 質問紙と脳波計を用い心理学的, 神経生理学的に検討し, 運動意図と視覚に対し体性感覚が空間的に不一致した際にも異常知覚が出現する可能性を報告した.
42. 佐藤剛介, 大住倫弘, 森岡 周
周期運動が脊髄損傷後の神経障害性疼痛と安静時脳波活動に与える影響
第8回日本運動器疼痛学会. 2015. 名古屋.
車椅子駆動が脊髄損傷後の神経障害性疼痛・気分と安静時脳波に与える影響を調べた. 車椅子駆動により主観的疼痛強度が減少し, 気分の改善が得られることが示唆された. 車椅子駆動後には前頭・中心領域で peak alpha frequency が有意に増加することが示されたことについて発表した.

43. 大住倫弘, 住谷昌彦, 和気尚希, 佐野佑子, 一ノ瀬晶路, 四津有人, 熊谷晋一郎, 國吉康夫, 森岡 周
Virtual Reality System を用いたリハビリテーションによって幻肢の随意運動が再構築され幻肢痛が緩和する
第 8 回日本運動器疼痛学会. 2015. 名古屋.
Virtual Reality System を用いたリハビリテーションによって運動表象の改善がもたらされるのかを検証するとともに, 改善した運動表象と幻肢痛の間には相関関係があるのか否かを報告した.
44. 大住倫弘, 住谷昌彦, 和気尚希, 佐野佑子, 一ノ瀬晶路, 四津有人, 熊谷晋一郎, 國吉康夫, 森岡 周
到達運動計測による複合性局所疼痛症候群のフィードフォワード制御の特性抽出
第 8 回日本運動器疼痛学会. 2015. 名古屋.
複合性局所疼痛症候群における到達運動制御の破綻についての計測結果を報告した上で, sensorimotor integration や痛みに対する恐怖心が到達運動の動き始めに及ぼす影響を考察して発表した.
45. 大松聡子, 高村優作, 今西麻帆, 富永孝紀, 阿部浩明, 森岡 周, 河島則天
能動的注意/受動的注意に特徴的な半側空間無視症状を呈した 2 症例の対比的考察
第 39 回高次脳機能障害学会学術集会. 2015. 東京.
視覚性注意機能における能動的注意と受動的注意それぞれに特徴的な無視症状を呈した 2 症例を取り上げ, 脳画像所見と行動データから, 病巣による無視症状の特徴が明確化したことを報告した.
46. 高村優作, 大松聡子, 今西麻帆, 田中幸平, 万治淳史, 生野公貴, 加辺憲人, 富永孝紀, 森岡 周, 河島則天
半側空間無視症例における反応時間の空間分布特性 -無視症状と注意障害の関連性を捉える新たな評価方法の考案-
第 39 回高次脳機能障害学会学術集会. 2015. 東京.
半側空間無視の病態に内在する, 注意障害と無視症状の関連性を捉える新たな評価手法の開発を行い, 横断的研究の成果を発表した.

47. 藤井慎太郎, 生野公貴, 中村潤二, 吉村友希, 池上浩平, 高村優作, 大松聡子, 森岡 周, 河島則天
回復期脳卒中患者における半側空間無視症状の縦断的变化
—全般性注意機能と無視症状の関連性を中心に—
第 39 回高次脳機能障害学会学術集会. 2015. 東京.
半側空間無視を呈した回復期脳卒中患者を対象として, 注意機能と無視症状の改善過程について縦断的に検討した. 回復過程は Karnath が提唱した全般性注意機能の低下, 右空間に対する注意の増加, 左空間に対する注意の増加からなる回復プロセスの 3 つの要素に合致した傾向を示した. 反応時間の空間分布特性による評価は無視症状と全般性注意障害の関連性を捉える上で有効であり, 無視症状の回復プロセスを客観的に捉える上で有益な手がかりを与え得る方法であることが示唆された.
48. 冷水 誠, 西 海星, 坂東 誠, 松下綾佳, 金 起徹, 村木 茜
自己パフォーマンス認識能力と立位姿勢制御能力の関係
第 1 回 身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
立位姿勢制御能力において, 単関節の深部感覚の知覚精度と自己の運動パフォーマンス識別能力の関係性を検証した結果, 深部感覚精度との関係性はみとめられなかったが, 自己のパフォーマンス認識能力が高いほど重心動揺は少ないことが認められた.
49. 前岡 浩, 河野汐莉, 時下由宇
疼痛抑制に対する効果的手段の検討 ～運動及び認知課題に着目して～
第 1 回 身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
運動および認知課題の種類や組み合わせが痛みを与える影響について検証した. 課題によらず痛み閾値や耐性が増加し, 10 分後まで持続が認められたが, その原因についてはより詳細な検証が必要である.
50. 塩崎智之, 岡田洋平, 森岡 周
自覚的身体垂直位のエラーを顕在化した際の脳活動について～視覚情報を用いた顕在化の検討～
第 1 回 身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
脳波を用いて主観的身体垂直位のエラーを顕在化した際に活動する脳領域を検討した. 主観的身体垂直位にエラーがある際には右の頭頂葉の活動が高まることが示唆された.

51. 信迫悟志, 碓 美穂, 森岡 周

映像遅延装置を用いた道具使用と視覚の不一致検出特性の調査

第1回 身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.

身体運動は, 視覚, 体性感覚, 遠心性コピーなどの多感覚間の時間的整合性の上に成り立っている. この時間的整合性について, 脳はどの程度の時間ずれを許容するのかについて調べる方法として, 映像遅延装置を用いた触覚・受動・能動運動と視覚の時間的不一致検出課題 (Shimada 2009,2010) がある. 先行研究では, 健常成人においては, 触覚・受動・能動運動のいずれにおいても, それらと視覚とのずれ (時間的不一致) が約 200 ミリ秒以上となると, その不一致を検知できることが示されている. このことは, 多感覚統合の時間窓が, 約 200 ミリ秒以下であることを示している. しかしながら, 道具使用における多感覚統合の時間窓については, 調べられていない. そこで, 健常者を対象に, 道具使用と視覚の不一致検出課題を実施し, 道具使用における時間的不一致検出特性について調査した.

52. 岡田洋平, 大住倫弘, 岡本昌幸, 成田 雅, 冷水 誠, 森岡 周

パーキンソン病の標準型車椅子駆動能力低下の関連要因の検討と足こぎ車椅子の試み

第1回 身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.

パーキンソン病における標準型車椅子の駆動能力低下への固縮, 無動の関与の可能性についてと, パーキンソン病患者は足こぎ車椅子の駆動能力は高い点について明らかにした.

53. 渕上 健, 森岡 周

自己と他者の運動観察による運動イメージ能力への影響

第1回 身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.

慢性期脳卒中片麻痺患者 7 名 (右半球損傷 4 名, 左半球損傷 3 名) を対象に, 自己と他者の下肢運動を観察し, 直後の運動イメージ能力の変化を調査した. 右半球損傷者では他者の運動観察に, 左半球損傷者では自己の運動観察後に, 運動イメージ能力が向上する傾向が見られた.

54. 石垣智也, 森岡 周

ライトタッチ効果の神経メカニズムに関する検討

第1回 身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.

脳波を用いてライトタッチ効果に関係する脳領域を検討し, 経頭蓋直流電気刺激を用いて, その責任領域が後部頭頂皮質であることを一連の研究により報告した.

55. 植田耕造, 光武 翼, 光吉俊之, 久保洋平, 金 由佳, 松政茂人
Lateropulsion に対する直流前庭電気刺激の即時的影響 -3 症例での検討-
第 1 回 身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
脳損傷後に lateropulsion を呈した 3 症例を対象に直流前庭電気刺激が与える即時的効果
を調べた. 各症例によって効果は少しずつ異なったが, 動揺速度の減少や動揺位地の
正中への偏倚を認めた.
56. 赤口 諒, 大住倫弘, 森岡 周
妬み情動経験が主観的痛みを与える影響—脳波を用いて—
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
妬みという自己と他者を比較することで生じる不快情動を感じている時の脳活動を調
査し, 内側前頭前野などの高次情動領域と関係があることを報告した.
57. 川崎有可, 赤口諒, 森岡 周
妬み情動が主観的疼痛強度に及ぼす影響
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
妬みという自己と他者を比較することで生じる不快情動が主観的疼痛強度にどの程度
影響を与えるかの検証を行い, 妬み経験によって痛みは増強することを発表した.
58. 北村成, 森岡 周
2 者コミュニケーションにおける身体同調性と関係する要因の検討
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
2 者でのコミュニケーション中の身体同調がみられるペアにおける特徴的心理要因を
調査して報告した.
59. 前岡 浩, 松浦由梨, 谷 知美
人間関係と性差が痛みに及ぼす影響
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
他者との関係性と性差が痛みの感受性に与える影響について検証し, 親密度により痛
み閾値が変化し, 島皮質の活動との関連が認められた.
60. 前岡 浩, 松尾 篤, 冷水 誠, 岡田洋平, 大住倫弘, 信迫悟志, 森岡 周
痛みの情動的側面に着目したアプローチの検証
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
自身の手で「痛み場面」を消去するという積極的行為により, 痛み閾値および耐性の増
加が認められ, 痛みの情動的側面に対する治療となる可能性が示唆された.

61. 松村理加, 青木美紗子, 麻野紗也加, 小西芹香, 小林玲子, 前岡 浩, 松尾篤
共感能力に対する内受容感覚と自己優越感の影響
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
共感能力, 内受容感覚, 自己優越感の関係性について検証し, 男性は身体内部の意識から共感能力を発展させ, 女性は自己優越感と共感能力のバランスをとりながら他者理解を進めることを示した.
62. 松尾 篤, 前岡 浩, 冷水 誠, 森岡 周
自己意識の過大評価と他者評価の関係
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
大学生を対象に自己意識と他者との関係性を検証し, 過大な自己評価を示す学生は試験結果が低く, 「できている」という自己意識の過大性が学習成績に影響することが示唆された.
63. 信迫悟志, 新井輝裕, 森岡 周
経頭蓋直流電気刺激を用いた社会性に関する神経基盤の調査
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
社会性には, 自他同一を担う下前頭皮質 (Inferior Frontal Cortex : IFC) を中心としたミラーシステムと自他区別を担う右側頭頭頂接合部 (Temporal Parietal Junction : TPJ) などのミラーシステムを調整するシステムが, それぞれ正常に機能することが重要とされている. そこで本研究では, 経頭蓋直流電気刺激 (Transcranial Direct Current Stimulation : tDCS) を使用して, 各脳領域が, 社会性を反映するとされる模倣抑制課題や視点取得課題, 自閉症スペクトラム指数 (Autism-spectrum Quotient : AQ) に与える影響について調査した.
64. 尾川達也, 大門恭平, 森岡 周
入院患者の主観的改善度と ADL, 目標達成度との関係性
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
回復期リハビリテーション病棟入院患者の主観的改善度に ADL 向上よりも目標達成度でより関係していることを報告した. また, 目標の重要度は達成度の程度と関係なく主観的改善度に影響しており, 目標に患者価値を含めることでより多くの報酬が得られる可能性を示した.

65. 西 勇樹, 大住倫弘, 信迫悟志, 松尾 篤, 森岡 周
疼痛閾値と内受容感覚の感受性及び不安との関係性
第 2 回 社会神経科学とニューロリハビリテーション研究会. 2015. 奈良.
内受容感覚の感受性と交感神経変動の相関には個人差が認められ, その個人差を情動的側面より捉えることを目的とし, 研究経過の一部を発表した. 結果, 内受容感覚の感受性が高い者ほど交感神経変動が大きいことが認められた. しかし, 情動的側面との関係性は認められなかった.
66. 大住倫弘, 信迫悟志, 谷口愛美, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 森岡 周
感覚運動の不協応が周期運動と主観的知覚に及ぼす影響について
新学術領域研究 (科研費) 身体性システム領域全体会議. 2016. 岩手
映像遅延装置を用いて, 運動意図と実際の感覚フィードバックとの間に乖離を生じさせることによって重さの知覚や身体所有感の損失が認められることに加えて, 運動が緩慢になることを行動学的に明らかにした.
67. 信迫悟志, 大住倫弘, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 森岡 周
映像遅延課題を用いた身体失認・失効症の身体性変容の調査
新学術領域研究 (科研費) 身体性システム領域全体会議. 2016. 岩手
映像遅延装置を用いた身体性変容の定量的評価の開発および臨床データを発表した.
特に失行症においては, 随意運動と実際の感覚フィードバックとの時間的不整合に気づかないという特徴が明らかとなった.
68. 今井亮太, 大住倫弘, 森岡 周
運動を躊躇する橈骨遠位端骨折術後患者に対する腱振動刺激による運動錯覚の効果
新学術領域研究 (科研費) 身体性システム領域全体会議. 2016. 岩手
振動刺激を用いた錯覚が橈骨遠位端骨折後患者の痛みや運動機能に良好な効果をもたらすことを明らかにした. それに加えて, 恐怖心を象徴するような運動の躊躇が改善されることを報告した.